

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	はるか		
○保護者評価実施期間	R7年 8月 26日		～ R7年 9月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	R7年 9月 1日		～ R7年 10月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 8月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人の特性や成長に合わせてきめ細やかな支援を行っている。	「楽しい活動」を通じて、自然に生活動作やコミュニケーションの力が身につくように工夫している。 また、集団経験や季節行事を取り入れることで、社会性や多様な経験を育むようにしている。	個別支援計画の内容をより具体化し、チームで共有をして丁寧に関わる仕組みを作る。 活動の幅を広げ、多様な特性に対応できるプログラムを検討する。
2	ダウン症に特化した専門的な療育が受けられる。 ダウン症子育て経験のある保護者が職員として多数在籍しており、保護者の気持ちに寄り添った支援を行える。 また、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士もダウン症に特化していて専門的な支援が受けられる。	職員間で日々の支援内容や子供の様子を共有し、チームで支援の質を高めている。ちょっとした雑談の中でも、自身の経験を織り交ぜながら積極的に保護者と交流を図り信頼関係を育み、保護者が気軽に相談しやすい空気感を作っている。	専門知識の中で保育士、看護師、リハビリ士に情報を交換していき、互いの知識を高め合っていく場を作る。
3	保護者とのコミュニケーションを大切に、相談や情報共有を丁寧にしている。 また、アットホームで温かい雰囲気があり、子供も保護者も安心して過ごせる環境となっている。	勉強会・お話を定期的に行き、多様な背景をもつ先輩保護者との交流の機会を設けることで、保護者が将来への不安を和らげ、より現実的な見通しを持てるように支援している。子供はもちろん、一人一人の保護者ともしっかりと向き合っている。	ISTツールを活用し、記録や評価をより効率的・客観的に行える仕組みを整えていくことにより、コミュニケーションをとる事をより充実化させる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ダウン症児への支援経験は豊富だが、ダウン症以外の障害特性に関する知識や対応が十分ではない。	職員の専門性が偏り、発達障害や他の特性への知識習得の機会が少なかった。	職員研修や外部専門家との連携を通じ、ダウン症以外の障害理解や支援方法を学ぶ機会を増やす。
2	送迎サービスがなく、利用希望があっても通所が難しい家庭がある。	人員や設備の制約により、送迎体制を整えることが難しい。	事業所の最寄り駅までの送迎を検討していく。
3	プログラムや支援内容がまだ限定的で、幅広いニーズに応えにくい部分がある。	活動プログラムや教材のバリエーションを増やすための時間や準備が限られている。また、人員や、1日の上限人数にも制約があるため難しい。	外部教材の活用や職員のアイデアを取り入れ、活動プログラムの多様化を進める。

事業所名		はるか				公表日	R7年 10月 15日		
						利用児童数	57	R7年 9月 13日	回収数 34
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	33	1			もう少し広いといい。 人数が多い日は少し窮屈ですが、普段は広く使えて子供も動き回れて良いです。	施設の構造上、スペースの拡張は難しいですが、今後も子どもたちがのびのびと活動できるよう工夫してまいります。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	34				充分だと思えます。 手厚いです	今後も安心して利用していただけるよう、職員一同で連携を取りながら、丁寧な対応を心がけてまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	31	2		1	個人的には満足しているが、他に行った事が無いので適切なかわからない。	今後もお子さま一人ひとりの特性に応じた支援環境づくりを大切に、より分かりやすく、安心して過ごせる空間となるよう継続して取り組んでまいります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	34				なっていると思えます。	今後も清潔で心地よい環境づくりに努め、こども達が安心してのびのびと活動できる空間を維持してまいります。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	34				ダウン症児に特化してと聞いているのでちゃんと受けられると思う。	お子さま一人ひとりの特性や発達段階に応じた、専門性のある支援を今後も継続して提供できるよう努めてまいります。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34				合ってると思えます。	今後も、皆さまのニーズに合った支援プログラムと支援の提供を継続していただけるよう努めてまいります。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	34				我が子の事を考えて支援計画を立ててくれたと思う。	今後も、保護者の皆さまとしっかり連携しながら、お子さまにとってより良い支援が提供できるよう努めてまいります。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31	1		2	多分されてると思えます	今後も計画内容について保護者の皆さまと連携を取りながら、ご納得いただける支援計画の作成に引き続き取り組んでまいります。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34				されてます。	今後もお子さまに合わせた丁寧な支援を続けてまいります。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	33	1			毎週色々違って子どもも楽しく療育を受けています。 とても工夫されていると思えます	今後もお子さまが飽きずに楽しく療育に取り組めるよう、多様な活動内容の工夫を続けてまいります。	
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	24	5	2	3	療育園に通ってます。	現状では殆ど機会がありませんが、今後、交流する機会を増やせるよう、関係機関との連携強化や企画の充実に取り組んでまいります。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	34				説明受けました。	今後も、ご利用者さまやご家族にわかりやすく丁寧な説明ができるよう努めてまいります。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33			1	毎回してくれます。	今後もご家族の皆さまに安心していただけるよう、丁寧でわかりやすい説明を継続してまいります。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	33			1	参加出来てませんが行われています。 お話しなどとても役立つことばかりで有難いです。	今後も皆様が参加しやすい環境作りや、情報を提供出来る様、引き続き取り組んでいきます。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	34				良く話してくれて、話しやすい先生ばかりです。	今後も日々のやり取りを大切にしながら、ご家族との連携を密にし、お子様にとってよりよい支援が出来る様努めてまいります。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	34				ちょっとした会話の中でも言ってくれます。 母子通所なので、わからない事が聞けます	保護者の皆様お気軽にご相談いただける雰囲気づくりを、これからも大切にしております。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34				先生達もお子さんでダウン症の方が多く共感してくれていると思えます。 とても親身になってくれます。	今後も一人一人に寄り添った支援を大切に、心を込めて対応していきます。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	33			1	父母に関しては支援されてると思うが、きょうだいは居ないのでわからない。	夏祭りやはるみらフェスなど、きょうだい・ご家族と一緒に参加できるイベントを開催し、多くのきょうだい・ご家族にご参加いただいております。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32	1		1	相談はすぐ答えて頂けます。	今後も気軽に話していただけるような雰囲気づくりと、迅速な対応を心がけてまいります。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	34				良く会話しているので配慮がなされていると思う。	今後もよりよいコミュニケーションを心がけ、必要な情報がきちんと伝わるよう努めてまいります。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	32			2	Instagramを見ています。	公式LINEやSNSを使って、今後もより分かりやすい情報発信の方法に力をいれてまいります。	

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	31	2		1		今後も安心してご利用いただけるよう、引き続き適切な情報管理と丁寧な説明を目指してまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	2		10	先生達は訓練を受けてと思うが、その訓練に参加した事は無いし保護者達と一緒に訓練するのがあるのかも分からない。	各マニュアルを算定し誰でも自由に閲覧出来る様事業所内に掲示し、職員は定期的に訓練を実施しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21	1		12		年間研修・訓練計画をたて、それに沿って職員は定期的に訓練を行っています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	33	1			思います。	今後も安全対策を徹底し、安心して通って頂ける環境作りに努めてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30			4	怪我した事が無いので分からないが、ちゃんとしてると思う。	万が一事故や怪我が発生した場合には、提携医療機関や関係各所に連絡をとり、その場で状況をすぐにご説明・共有できるようにしています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	34				大好きです。 のびのびしてるので安心してと思います。 とても大好きな場所になってます。	今後も利用者さまにとって安心できる場所となるよう努めてまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	34				とても楽しんでいるし、自分の居場所として安心きって過ごしています 毎週楽しそうにしています。	利用者さまにとって安心感と楽しさのある場所であり続けられるよう、支援の質の向上に取り組んでまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	34				満足してます。 とても良い事業所です！救われています！ 親子ともども、精神的に支えてもらっていて、とても有難い居場所です	今後とも親子で笑顔で通っていただける様ような、温かい事業所を目指してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	はるか				公表日	R7年 10月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	19		人数やプログラム・子どもの特性によって活動を分け、室内環境の工夫を行っています。	プログラムの内容によっては、スペース確保が必要と感じる場面もあるが、その場合は他施設も併用しながら場所調整している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	19		適切に配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	19		建物の構造上階段のみだが、ベビーカーや補助が必要な場合は、職員がその都度対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	19		基本的な掃除・高温除菌モップ掛けを毎日行い、赤ちゃんから大人まで心地よく過ごせるよう努めています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	19		個別の部屋や仕切り等を使用し空間を区切り、利用者の特性に合わせた配慮を行っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	19		業務開始前の朝礼、終了後にその日の振り返りを行い情報共有を行っている。また全体会議を月1回以上行っており情報共有している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19		アンケート結果の共有を行い、改善点は話し合い、出来る事は早急に改善するよう努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19		毎月の全体会議の他に、管理者と職員で個別に話す機会を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	5	第三者評価機関ではないが、行政書士による外部評価を行い、業務改善に努めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	19		地域で行われている研修や、資格取得講習等を受講しています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19		適切に作成し、HPIにて公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19		日々のやり取りの中で保護者のニーズや子どもの課題を分析し、検討しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	19		児童発達支援管理責任者と児童指導員または講師を含めた全体会議を行った上で、支援計画を作成しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19		スタッフ全員で共有しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	19		聞き取りによる保護者への細かいアセスメントを行い、こどもの行動を常に観察しながら確認しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	19		ガイドラインに従い、職員だけでなく講師とも相談しながら支援内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19		講師も交えながらチームで行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19		固定しないように、毎月プログラムを変更しています。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	19		専門的な支援は個別で、その他の支援は集団で行っています。また児童の特性によってその都度対応しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	19		支援前に必ず全職員でミーティングを行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	19		支援後に必ず振り返りを行っていますが、気になる事は支援中でも共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	19		その場でしっかりと記録を取り、職員間で旧友しながら支援に生かしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19		6ヶ月を目安に見直しを行い、その他も必要であれば見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	2	児発管と児童指導員が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	2	市町村によりますが、地域の保健・医療センター等と連携して支援を行っています。	その他の機関とも連携できるよう検討していきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19		移行へ向けて先輩ママからのお話を聞くなど、積極的に支援を行っています。関係機関からも依頼があれば行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	4	依頼があれば行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	15	4	市町村によるが、機会を設けています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	17	事業所として、協働活動などは行っていますが、保護者の希望により職員による保育所等訪問をしています。	直接交流の場を作ることは引き続き、検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	19		親子通所のため来所のつど、行っています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	19		ペアレントトレーニングやサポートブック作成・防災のお話・先輩ママによる就学についてのお話など機会を設けています。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	19		契約時と変更時に必ず丁寧な説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19		来所時にアセスメント等にて保護者の意向を確認する機会を設け、こどもや保護者の意思を尊重しながら作成しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	19		必ず保護者の同意を得て支援しています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	19		支援時間以外でも開所時間内に受けたものは出来るだけ迅速に対応できるよう努めています。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	19		はるか親の会・兄弟参加のイベント等で交流する機会を設けています。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19		支援時間以外でも開所時間内に受けたものは出来るだけ当日中に対応できるよう努めています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	19		公式LINEを活用し、状況に応じて全体・個別対応を行っています。また、毎月はるかだよりを発行して発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19		十分留意しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	19		親子通所のため日々保護者との意思の疎通や情報共有を図っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	4	地域の施設、農家、企業と協力して運営を図っています。	
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19		定期的話し合い、訓練を行っています。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19		保護者にも参加していただき、避難訓練を行っています。	
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	19		アセスメントや日々のやりとりの中で確認しています。	
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		19	アセスメント等で個人のアレルギーは把握しておりますが、親子通所の為指示書での対応は行っておりません。	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	19		年間計画に基づいて毎月訓練・研修をおこなっています。	
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19		周知しています。	認知していない方もおられるので、周知をしっかりとしていきます。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	19		その都度ヒヤリハットを作成し、毎月会議にて全職員に共有しています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19		虐待防止委員会を設置し、ミーティングを行っています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		19	身体拘束におけるマニュアルを策定しておりますが、身体拘束を必要とする児童安全のため利用をお断りしています。		